

平成 28 年 12 月 29 日

各 位

会社名 株式会社デンタス
代表者名 代表取締役 島 文男
コード番号 (6174 TOKYO PRO Market)
問合せ先 管理部長 大崎 隆
電話番号 088-657-3115

固定資産の減損損失計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 12 月 29 日開催の取締役会において、以下のとおり、当社固定資産に係る減損損失を計上すること、並びに当社における最近の業績の動向等を踏まえ、本年 5 月 13 日付、「平成 28 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において開示した平成 29 年 3 月期(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)の業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 固定資産に係る減損損失の計上について

平成 29 年 3 月期中間連結会計期間において、下記「2. 連結業績予想の修正について」にも記載のとおり、当社模型事業売却による収益の低下と、それを上回る今後の収益の柱と見込んでいた機械販売売上の低迷、また、それらに伴う営業キャッシュ・フローの回復の遅れにより、固定資産の帳簿価額の回収が見込めなくなったことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(61 百万円)として特別損失に計上するものいたしました。

2. 連結業績予想の修正について

(1) 当期の連結業績予想数値の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	百万円 1,374	百万円 8	百万円 14	百万円 13	円銭 46.97
今回修正予想(B)	987	△183	△168	△59	△210.82
増 減 額 (B - A)	△387	△192	△182	△72	
増 減 率 (%)	△28.2	—	—	—	
(参考) 前期連結実績 (平成 28 年 3 月期)	864	△166	△141	△144	△591.10

(2) 修正の理由

(売上高について)

当社は期初より、最新のデジタル歯科医療機器である口腔内スキャナー、並びに 3D スキャナーを初めとするデジタル歯科技工用機械の販売に注力しておりました。また、口腔内スキャナーについては販売先からの模型製作の受注、3D スキャナーについては撮影した CAD データの加工(デザイン)と歯科技工物の製作受注を合わせて見込んでおりました。

しかしながら、口腔内スキャナーにおいては国内における普及率の伸びが想定を下回ったこと、また 3D スキャナーを初めとするデジタル歯科技工用機械においては歯科ならびにデジタル技術に精通した営業人員の確保と販売体制確立に遅れが生じたことにより、機械販売売上について当初予想と乖離する結果となりました。また、本年 6 月 27 日付、「事業譲渡に関するお知らせ」において開示した模型事業の譲渡に

より9月30日をもって模型販売事業（前期の当該事業の売上高は173百万円）を終了したため、同お知らせでは精査中としておりました業績に与える影響も確定したことから、当該売上においても乖離が発生しております。

（利益面について）

当社は、デジタル歯科技工用機械の開発にも注力しており、当該開発に従事する人員の増加、また、子会社の増加に伴う子会社支援業務に携わる人員の増加が発生しております。

そこで利益面については、売上が未達となった事による利益の減少に加え、当該人員増加に伴う人件費の拡大による利益の減少により連結営業利益および連結経常利益に乖離が、また模型事業譲渡に伴う事業譲渡益の計上ならびに前述の特別損失の計上により親会社株主に帰属する当期純利益においても乖離が発生しております。

以上の理由により、売上高、利益とも前回発表予想を下回る見込となりました。

当社グループにおきましては、引き続きデジタル歯科技工の普及に努めつつ、積極的なコスト改善を推し進め、収益の改善及び財務体質の強化に取り組んでまいります。

（注）上記の予想は、現時点で当社が入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により見通しと異なる結果となる可能性があります。

以 上